

明治維新 150 年

— 垂水はその時 —

近代学校のモデル



▲高崎正風の学則

垂水の地頭であった高崎正風が明治 2 (1869) 年、近代学校のモデルとなる「垂水学校」を設立。高崎はこのとき就学の心得となる学則を制定し、後の学校の模範となりました。

垂水を支えた豪商たち



▲川畑家に残されていた明治政府発行の地券。川畑市兵衛の名の地券が多く残されており、大地主だったことが分かります。

西南戦争による出費などによる厳しい財政状況の中、かつての豪商たちが垂水の経済を支えます。垂水本町の川畑市兵衛、川井田善右衛門などの豪商たちが、当時垂水の主要産品であった砂糖の製造・販売を通じ、中央政府との接点を作り、農商務省と協同した製糖試験場の設置や垂水糖ブランドの確立など、官民が協調した経済モデルを築きました。前田正名や品川弥次郎などの中央官僚が垂水を訪れていたという記録も残されており、当時の垂水が豪商たちにより経済の発展を遂げようとしていたことがうかがえます。

参考) 本町歴史講演会資料
川畑市兵衛と川井田善右衛門
— 垂水が「明治日本」になるまで —
作／長崎大学教育学部 井手弘人教授



9_ 垂水小学校の演奏 10_ 滋賀県近江高等学校の特別演奏 11_ グランプリ発表の瞬間、歓喜する松陽高等学校生徒 12_ グランプリおめでとうございます！

**第20回瀬戸口藤吉翁記念
行進曲コンクール**

6月2日(土)に行われた世界でも類を見ない行進曲のみのコンクール。今年は、全22団体中、松陽高等学校が瀬戸口藤吉賞(グランプリ)を受賞しました。地元垂水小・垂水中央中・垂水吹奏楽団も出場し、熱のこもった演奏を披露しました。



瀬戸口藤吉

明治元(1868)年5月10日に生まれ、同15年に海軍軍楽隊に入隊。同33年、「軍艦の歌」を吹奏楽による行進曲に編曲した「軍艦行進曲」を観艦式で演奏し、国民に感動を与えました。その後、昭和12年、70歳で「愛国行進曲」を作曲。翌年、内閣総理大臣賞を受賞。同16年11月8日、74歳で生涯を終えました。



6_ 瀬戸口藤吉翁の孫・典久さん
7_ 式典後の記念撮影
8_ 左：モニュメント、右：顕彰碑

誰もが一度は聞いたことのある「軍艦行進曲」の作曲家「瀬戸口藤吉翁」は、明治元年、ここ垂水の地に生まれました。

今月号では、郷土の偉人である瀬戸口藤吉翁生誕150周年を記念して垂水市文化会館で行われた記念イベントについて、写真とともにご紹介します。

**第20回瀬戸口藤吉翁の
ふるさとコンサート**

6月13日(水)、約1000人が来場した文化会館。今年度は、市制施行60周年も記念し、海上自衛隊東京音楽隊にご出演いただきました。華やかな演奏とさまざまなパフォー



1_ 東京音楽隊の演奏 2_ 自衛隊の歌姫・三宅由佳莉 3_ 開演前に行われたロビーコンサート 4_ 笑いを誘う「ザ・ドリフターズ」メドレー



5_ 式典で行われた表敬演奏

**顕彰碑移転・
記念モニュメント建立
セレモニー**

6月13日(水)、ふるさとコンサートに先立ち、瀬戸口藤吉翁の顕彰碑移転と、新たなモニュメント建立を記念し、文化会館玄関前で式典が行われました。

式典では、P3C哨戒機の表敬飛行や東京音楽隊による代表曲「軍艦」の演奏が行われ、この日のため東京より来垂された瀬戸口藤吉翁の孫・瀬戸口典久さんは「生の演奏を聴いて、涙が溢れてきました。このような式典も開いていただき、改めて祖父の偉大さを感じました」と話されました。